

第一次産業従事者の健康観に関する理論生成 壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観の構造

著者	小澤 涼子
号	89
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	医博(看)第24号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00129379

氏名	おざわ りょうこ 小澤 涼子
学位の種類	博士(看護学)
学位授与年月日	2020年3月25日
学位授与の条件	学位規則第4条第1項
研究科専攻	東北大学大学院医学系研究科(博士課程) 保健学専攻
学位論文題目	第一次産業従事者の健康観に関する理論生成 —壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観の構造—
論文審査委員	主査 教授 大森 純子 教授 朝倉 京子 教授 辻 一郎

論文内容要旨

背景：

我が国の第一次産業就業者数は減少傾向にあり、高齢化による後継者や担い手の不足は深刻な課題である。第一次産業従事者は、人々の食と地域経済を支える重要な役割を担っており、従事者の健康の支援が求められる。これまで、第一次産業従事者の健康は、身体的、精神的、社会的側面から研究され、その要因の解明と支援について多くの示唆が得られてきた。一方、第一次産業に従事する当事者の視点に立った健康としての健康観の解明は行われていない。

人々との社会的相互作用により表れる第一次産業従事者の健康観を理論化し明らかにすることによって、当事者の生活と経験に立った理解のもと、生成された概念の特性や相互の関係性から支援の検討が可能となる。

目的：

第一次産業従事者の健康観に関する理論生成を目的とした。目的の達成のため、以下の3段階で研究を進めた。

- ①当事者の理論生成にあたり、インタビューの方法論的示唆ならびに分析の概念的示唆を得るために、保健師へのインタビューにより第一次産業従事者にとっての健康を明らかにし、対象を焦点化した。
- ②対象を焦点化した結果から、「農業従事者の Health Belief」の概念を分析し定義を案出した。さらに理論生成における健康観の定義を導出した。
- ③壮年期の女性新規就農者を対象として、転入地で獲得する健康観の構造について理論を生成した。

方法：

①は質的記述的研究デザイン、②は概念分析、③はグラウンデッド・セオリー・アプローチにより行った。①②の結果を踏まえ、本研究では健康観を「自然環境や労働、人々との相互作用を繰り返し、調和を図りながら自らよりよく生きることを求めて見出されるその人にとっての安寧な状態」と定義し、③により理論を生成した。

理論生成の研究参加者は25歳～45歳の壮年期の女性新規就農者21人、男性就農者2人であった。理論生成のデータ収集は半構造的インタビューにより行った。

本研究は、東北大学医学系研究科倫理委員会の承認を得た。

結果：

壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観は、「《自然様》に生かされて生きるためにできることをする》を中核の概念として、【この土地の農の流儀を体得する】【“自然様”に懷かれ農を切り盛りする】【この土地の農人として誇らしく生きる】の3つの上位概念を健康観として構造を成す

理論であった。

壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観の一つは、転入当初から人々との暮らしや農業の考え方、生活を共にする家族の考えといった、ここでのやり方として【この土地の農の流儀を体得する】ことであり、転入地の生活に奮闘しながら適応し調和を保っていた。二つ目の健康観は【“自然様”に懷かれて農を切り盛りする】ことであり、転入地の人々とお互い様の関係を作り、生き物を生活の糧とした働き方と暮らし方の調和を保っていた。三つ目の健康観は【この土地の農人として誇らしく生きる】ことであり、転入地での農を生業とした生活を通して身も心も農家として生きる在り方が様になり、農を通して自分ができることを見出しよりよく生きることを求めている。

この3つの上位概念からなる壮年期の女性新規就農者が獲得する健康観は、就農当初からの生活の変化に伴い段階的でありながらも、転入地のやり方を体得しながら、人々との関係を結び生き物が育つサイクルを優先して農を切り盛りし、その中で自分が生かされていることを感じながら子どもたちに生きることを伝え人々にも発信するように、同時並行で獲得する重層的な構造を成すものであった。

また、日々の農の切り盛りをしながら、この土地のやり方を体得することがあった。子どもたちに生きることを伝え、働く合間で四季の恵みを愉しみ、農の魅力を人々に発信する中で、自分が生かされていることを感じるがあった。このように、概念同士は双方に関係する円環的な構造を備えていた。

考察：

壮年期の女性新規就農者は、転入当初からの農と生活が一体となった家族との生活に奮闘しながら、生き物のいのちを守り育て、暮らす人々に受け入れられるように人々の中に入り込み、この土地でのやり方を体得していた。生き物の育つサイクルを優先しながら働き、家事や育児を入れ込むように生活を回し、転入当初から農を営む日々を切り盛りする中で、生き物も自分も生きるために生かされていることを感じているからこそ、子ども達に生きることを伝え、生産だけではない農の魅力を発信し、転入地でよりよく生きることを求めている。

女性新規就農者は、転入地で人々中に入り込み関係を作っていた。転入早期に暮らす人々や地域の文化、風習を理解し関係をつくる機会があることによって、生活の変化への適応だけでなく、産業と地域に根付いた互助の醸成につながる可能性がある。

また、農業においても、働き方や生活の在り方、役割を見直し、家族が互いに健やかに働き暮らすことができるよう関係部署と協働による支援が必要である。

さらに、女性新規就農者は、子ども達や人々に農と暮らしの魅力を伝え広め、自分ができる可能性を広げていた。食を通して人々の生きることを支える職業としても、農を営む一人の人としても認められる機会が、獲得する健康観を高め、転入地で健やかに働き暮らすことを支える機会にもつながることが示唆された。

結論：

人々や環境との相互作用により意味を持って表れる、壮年期にある女性新規就農者が転入地で獲得する健康観とその特徴の理解によって、女性新規就農者が健やかに働き暮らすための支援の検討が可能である。

審 査 結 果 の 要 旨

博士論文題目

第一次産業従事者の健康観に関する理論生成—壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観の構造—

所属専攻・分野名保健学.....専攻.....公衆衛生看護学.....分野.....

学籍番号.....B5 MD 2004.....氏名.....小澤 涼子.....

地域の食と経済を支える重要な役割を担い手である第一次産業従事者の健康支援が求められている今日、当事者の視点に立った具体的な支援内容や方法に関する示唆を得るため、支援者と当事者の視点から健康観の解明を行い、第一次産業従事者の健康観に関する理論生成を行った研究である。

1. 方法：①理論生成にあたり、方法論的示唆ならびに分析の概念的示唆を得るために、保健師が捉える第一次産業従事者の健康を明らかにした。②対象を農業従事者に焦点化し、Health Belief（健康観）の概念的特徴を検討し、理論生成における健康観の定義を導出した。③壮年期の女性新規就農者を対象とし、転入地で獲得する健康観の構造について理論生成した。①は質的記述的研究デザイン、②は概念分析、③はグラウンデッド・セオリー・アプローチにより行った。健康観を「自然環境や労働、人々との相互作用を繰り返し、調和を図りながら自らよりよく生きることを求めて見出されるその人にとっての安寧な状態にあること」と定義し、25歳～45歳の壮年期の女性新規就農者21人、男性就農者2人の研究参加者に半構造的インタビューを行った。

2. 理論：壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観は、『“自然様”に生かされて生きるためにできることをする』を中核の概念として、【この土地の農の流儀を体得する】【“自然様”に懷かれ農を切り盛りする】【この土地の農人として誇らしく生きる】の3つの構成概念からなる理論であった。壮年期の女性新規就農者が転入地で獲得する健康観の一つ目は、転入当初から人々との暮らしや農業の考え方、生活を共にする家族の考えといった、【この土地の農の流儀を体得する】ことであり、転入地の生活に奮闘しながら適応し調和を保っていた。二つ目の健康観は、『“自然様”に懷かれて農を切り盛りする】ことであり、転入地の人々とお互い様の関係を作り、生き物を生活の糧とした働き方と暮らし方の調和を保っていた。三つ目の健康観は、【この土地の農人として誇らしく生きる】ことであり、転入地での農を生業とした生活を通して、身も心も農家としての生き方が様になり、農を通して自分ができることを見出しよりよく生きようとするのが調和であった。

審査を通じて理論が洗練され、壮年期にある女性新規就農者が転入地で獲得する健康観は、人々や環境との相互作用により意味を持つことが明示された。考察においては、理論に基づく事象の理解が深められ、地域の振興を支えるために有効となる、女性新規就農者が健やかに働き暮らす支援の具体策が得られた。

よって、本論文は博士（看護学）の学位論文として合格と認める。